

## 目 次

1 . 叙勲に寄せて ( 編集幹事への感想文 )	今井 哲二 博士	2 頁
2 . 今井博士 叙勲祝 へのご挨拶 ( 懇親会席上にて )	塚本 一義 様	2
3 . 懇親会での 決定事項 等		3
4 . グライダー搭乗記	内田 正夫	4
5 . 昭和31年 通研での卒研の思い出		
卒 論 : 冷陰極放電管用酸化物陰極	雪野 健 S32 年卒	4
6 . 大学発ベンチャー企業創立まで	塚本 一義 S38 年卒	8
7 . 追記 及び 誤記のお詫び と訂正		11

# 会 報

第3号

「 今井研・卒研究生の会 」 2003.9.30

## 1. 叙勲に寄せて ( 編集幹事への感想文 )

今井 哲二 博士



本会の皆様方より、今春の叙勲（勲四瑞）に対し多大の祝意をお寄せ頂き、誠に有難く皆様方のご芳情に対しまして厚くお礼申し上げます。

学会活動などを通し、特に国立大学の名誉教授などに対する叙勲がどのようになされて来たかを知る者にとって、叙勲制度の現状を無条件に肯定するにはかなりの抵抗があります。

しかし、国立大学での勤務年数が短かった私の経歴や、民間では容易ではない叙勲であることを考え合わせ、NTTでの私のポジションにおける仕事、或いはそれに至る過程に対する仕事への評価である、と素直に受け止め感謝したいと思っております。

予期しない多数の会員の皆様方より、心こもった祝意を受けた身の光栄を嬉しく存じますと共に、これも皆様方のご協力のお陰であると存じ、この場をお借りして皆様方に重ねて厚くお礼申し上げます。〔 2003.9.15 今井 哲二 〕

## 2. 今井博士 叙勲祝 へのご挨拶 ( 懇親会席上にて )

塚本 一義 様

S38年に東京理科大学を卒業しました塚本です。本日は今井先生、叙勲おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。先生の残された業績の大きさを改めて思い浮かべますと同時に、こういう立派な先生に卒業研究のご指導を頂いたということ、大変誇りに思っております。その頃もっと勉強すれば良かったと今つくづく反省しておりますけれども。

実は私、先生と今日40年ぶりにお会いするという誠に申し訳ない話です。私は関西に就職したものですから、又非常に優秀な方の多い中で出来の悪い学生であったものですからなかなか先生の前に出るのが恥かしくて、ついつい疎遠になって今日までお会いすることが出来ませんでした。従って本来ならこういう席におられないはずなのですが、なぜおるかということをお話しようと思っております。数年前だったと思いますが、先生が有名な「京都賞」にご出席されたときにですね、私、三洋電機という会社にずっといた訳ですが、その研究所の研究所長、現在は研究開発本部長の吉年というものが出席していました、その時に先生から『三洋電機に塚本さんという方がいませんか』と尋ねられたそうです。で、吉年後で『塚本さん、何であんなに偉い先生知っているの』とたずねられました。そのとき先生のメールアドレスを吉年を通してお聞きしまして、早速メールをさせて頂きました。そうしたら、非常に丁寧な返信メールを頂きました。私からすれば先ほども申し上げましたがあまり良い卒研究生ではなかったのでもさか先生が私のことを覚えている、あるいは就職先まで覚えているとは夢にも思っておりませんでしたので、大変驚き感動いたしました。三洋電機には二万人かそれ以上の社員がおりますが、吉年が私の事を知っていたという

ことも何かのご縁かと思います。

そういう訳で、この会が発足する少し前に「連絡先不明・行方不明」であった私も何とかこの会に参加させていただく、この会の発足に間に合って皆様方とお会いできる、ということになった訳で、大変喜んでる次第です。で、本日は、幹事さんはじめ皆さんに大変あわたくしご挨拶いたしました。実は私事になりますけれども来週に、今はやりの「大学発ベンチャー企業」ということで、大学での研究成果を基に会社を設立するための設立総会、取締役会などを控えております。で、本来なら宿泊してもっとゆっくり皆さんと歓談したいのですが、そんな訳で、どうぞ途中退席することをご容赦下さい。

最後に、坪井幹事さんはじめ幹事の皆さん方のご尽力に感謝いたしますと共に、先生、それからこの会の会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、今井先生のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

( 今井先生からの補足スピーチ )

この前の会報に紹介したように、塚本さんは香川大学を今年3月に定年退官されて、現在、日本で初めての「文理融合の寄付講座」の客員教授になられているんですね。経理・公認会計士も入って、しかも塚本さんが大学の工学部から担当客員教授として加わって寄付講座を作られた訳ですが、その講座名がユニークなんですよ。『ベンチャービジネス創生工学講座』というのです。日本にベンチャービジネスの創設が強く求められている現在、こういう特別な寄付講座が日本で初めて出来たんです。非常に意義のあることだと思いますし、さっきのお話のように、もうそうした企業を作りつつあるというんですね。例えば楽しみながら有効にリハビリをやるようなシステム・ソフトを考えられている：本当はそのへんを塚本さんから説明して欲しかったのですが、ユニークなベンチャーを起こすという、日本で初めての文理融合寄付講座を作られて、そこで今後5年間活躍されることになっている訳です。その間にベンチャーを起こしていかれるということなので塚本さんのご成功をこの会全員、私をも含めてお祈りしておりますので、どうぞ頑張ってください。



### 3. 懇親会での決定事項等

2003年7月25日(金)に今井哲二博士叙勲の記念品贈呈に引き続き、第二回懇親会が開催されました。

その際の集合写真を本会報の最後に掲載しておきます。また、第一回懇親会での集合写真は既に別途お送りしてありますが、遅ればせながらこれも「本会報」の末尾に再掲しておきます。

今井先生への記念品は皆様から寄せられた寄付金の中から二点(インクジェットプリンター エプソン PM980C、及びデジタルビデオカメラ シャープ VL Z7)を「今井研卒研究生の会」の名で贈呈させていただきました。

また、今井哲二先生からは内祝として二色ボールペンを全会員に、と用意されておりました(欠席された会員の方には会報第三号の発送時に同封いたします)。

懇親会での決定事項を次に示す。

- 1) 会計報告として、「今井研卒研究生の会」金銭出納のご承認。
- 2) 遠隔地参加者への一部補助については、案2の上限8,000円をご承認。
- 3) 叙勲の記念品代105,000円のご承認。
- 4) 次期幹事は、現幹事の留任と斎藤哲也氏の幹事就任(増員)。
- 5) 次回懇親会は、2004.7.23(金)16:00~19:00 NTT武蔵野研究開発センタ内「華迎」にて開催。

なお、会員の方に寄付をお願いしたところ、実に多くの方達から総額284,000円の寄付が寄せられました。その結果、2~3年間は円滑に会の運営が可能となる見通しです。この紙面をお借りし、会員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。